

政府自民党による大学自治破壊の陰謀を粉砕するために

学生教職員の民主的団結を強め暴力集団追放にむかつて前進しよう

明治大学のすべての学生、院生、教職員のみならず

「4・12機動隊学館乱入事件」は全明大人に大学自治の重要性を私達一人、一人の基本的権利の問題として、又、日本の進路にかかわる全人民的な内容の重大な問題を提起している。私達は反動勢力のたぐらみを中心して大学の民主的変革と全人民的課題での闘いの一層の発展のために次の主張を掲げすべての明大に学び働く人々が勇気をもって闘いに立ちあがるように呼びかけるものである。

- 一 部 商学部学生会 駁台常任委員会
- 二 部 学芸会 中央執行委員会
- 商 雄 会 執行委員会
- 駁 台 法 学 会 執行委員会

「4・12事件」の事実経過

4月12日午後二時、日大法学部、経済学部校舎の警備を叫ぶ日大共闘一派約百名（内二十〜三十ヘルメットで武装）が明大学生会館前集合、デモを行ない、これを「見物」しようとした機動隊約三百名と衝突した。機動隊に制圧された日大共闘一派の一部はかたがたに不法に退避していった学生に会館に逃げ込み明大共闘一部暴力集団と共に学生会館の内外から投石を行った。これに対し機動隊は学生会館に催涙弾を打ち込み、新旧学生会館へ（大学当局にも無通告で）乱入し、「全員検査」を叫びサークル室等すべての部屋にかり入り事件に全く関係のない学生も含めて二百二十数名の学生を捕縛するという暴挙を強行した。

2. 機動隊の学内乱入、不当逮捕に所因抗議し、政府自民党による大学自治破壊の陰謀を粉砕しよう

これら警察機動隊の学内乱入、及び学生の逮捕は全く不当なものであり許しがたい暴挙である。我々はこれら警察の暴挙に対し、満身の怒りをこめて糾弾し厳重に抗議する警視庁、神田警察署にあらゆる方法で所因抗議しよう。

機動隊が学内に乱入したことは、政府自民党が教育機関内容の専制の支配と大学の自治破壊を狙い、暴力学生集団の流行を利用しつつ、大学を機動隊の支配の下におくとする中教申中間報告の具体的なあらわれである。そして、東大、立命館、法政、中央、各大学における機動隊の一方的学内乱入と同一の意図をもったものであり、大学自治と民主主義と真向から挑戦しようとするものである。

現在、政府自民党は中教申中間報告をもとに「大学秩序回復臨時措置法」、「大学管理法」の制定を準備し、これら各大学でその実質が具体的にあらわされている。これはまさに「治安維持法」の学生版であり、教育基本法と憲法と法に基くもので憲法の実質的改悪、民主主義破壊の突破口にしようとしている。また、政府自民党はインテリゲンチヤを国会解散、総選挙に持ち込み何とか国民の票と議席をかすめとり、「ドーブルの道」を再現しようとする必死になっている。こうして「大学問題」は今や当面の政局の焦点となっており、

「安藤・沖繩問題」で勝利するためにも政府自民党の大学問題での攻撃を断固として粉砕しよう。

3. 政府自民党に泳がされ、大学の自治を内部から破壊する一部暴力学生集団を糾弾する

十二日の機動隊の暴挙は、日大共闘一派の挑発と、かねてよりこれら日大共闘一派など他大学の暴力学生集団を学生会館内に引き入れ、民主的なサークル部員や学生を暴力的に排除し、学生会館を私物化している学生、デッチ上げ学生会館に集まり、一部暴力学生集団の自衛に必要とされたものである。これら暴力学生集団は東大斗争における二月十八日、十九日の安藤藩闘「攻防戦」に見られるように、テレビ、ラジオ、新聞等に大々的に報道され、一部のジャーナリズム、中でも英米紙によるものまで出ています。しかし、白昼堂々と機動隊の前を行き、ヘルメットでデモし安藤藩闘堂に入ってしまった事実、警察の機動隊の前で武器を運びながら、全く取り締まりもされず、彼等のなすがままにみまされてきた事実などは全く報道されなかつた。又、京都大学に暴力学生集団が侵入しようとし、五千名の学生、院生、教職員に阻まれ、路上で暴れ回っていたこと、京大当局の要請があったにもかかわらず、警察当局は「学内に警備を入らせろ」と要求して断わられたことを理由に一時以上も暴力学生集団の暴行を放置している。このように政府自民党は暴力学生集団を泳がせ、大学自治破壊、人民弾圧強化に金力をあけています。また、暴力学生集団は、暴力による大学占拠、「工場占拠」へ拡大するという方針に明らかにあり、大学を足場に労働運動までその挑発を拡大し、全良加型制の自治会を否定し、民主運動と学生運動を混乱に陥れようとする挑発破壊分子集団である。我々はかかる大学の自治と学生運動を危険に陥れようとする暴力学生集団の挑発破壊運動を許さず、学内からいっさいの暴力を放逐するために次のことをよびかける。

- (1) 学内に凶器を持ち込ませないようにする。
- (2) 同交や集会で自らの「主張」を貫徹するための暴力はいっさいふるわせないようにする。
- (3) 大学の建物の不当な占拠や封鎖をやらせないようにする。

- (4) 他大学の暴力集団を引き入れることを許さない。
- (5) 暴力破壊分子をいっさい学生の代表として認めず要免しよう。以上の五点をクラス、サークル、ゼミ、寮で決議し、暴力学生集団の暴行を許さず彼らがあてて違反するならば、断固として糾弾し、自主的に防衛体制を強めて反撃していくこと。

4. 救いがたい理論的破壊
——その後の暴力集団の行動を批判する——

学生会中執、デッチ上げ「学生会」に集まり暴力集団の十二日以降の言行は彼らがまさに政府自民党に泳がされて大学自治を破壊する集団であることを明白に裏書きしている。彼らは十三日夜、学生部長を学生会館五階に連行し「団交」を行ない「大学当局に今回の事態に対して抗議書と執行するよう」に進言する。「もしできなかつたら学生部を解体する」という二点についての確約を交換した。しかし、当局側が彼らの挑発にのみ独自の抗議書を提出したために十四日に全学休講の学長声明が発表された。暴力集団は休講、抗議集会を「分断工作」と専断し、「学生部は自己批判して解体せよ」とわめき、十四、五両日、二回にわたる「大衆闘争」なるものを行なった。

この間彼等の主張は大学当局の積極性の一定の成果である十四日の抗議集会を、権力の介入は一切の抗議集会を分断工作とリストを不当にもプロクアット……（学生会中執ビラ）と禁止の理論をふまき、「私学権力機構の解体……」（反帝学評書記局）と叫び機動隊乱入を誘発した自らの責任を隠ぺいするための支離滅裂の

理論を展開し記念館の「大衆団交」に参加した学生の基本的要求——大学自治を守り民主的権利を発展させる——をそらす犯罪的本質を自ら暴露している。以上明らかなように彼らは決して大学自治の守り手でなく学生、教職員の自治意識を利用して大挑発策動にかりたててゆく陰謀集団であることを示しています。このことは彼らがいくら否定しようとも、東大で「機動隊導入は成功だった」と全共闘が述べていることを見ればおのずから明らかである。

5. 全ての学生、教職員は団結して大学の自治を守るために共に闘おう

これら暴力破壊集団はかねてから学内外において、暴力挑発策動を行なってきたものであり、この暴力行為はいまいなき態度をとり、学生会の「二重権力」の状況を利用して、学内からいっさいの暴力を追放するために勇気をもって立ち上がるよう強く要請するものである。今や明治大学の自治および全国の大学の自治は危機に直面している。我々はこれら警察機動隊の暴挙に対し、怒りをもって抗議の行動に立ち上がり、中教審中間報告にあらわれている政府、文部省、自民党の陰謀を断固粉砕するために全ての大学入と団結し最後まで闘うものである。

スローガン

- 一、官憲の学内乱入、大学自治破壊を許すな！
- 二、不当逮捕者を即時釈放し、警察は謝罪せよ！
- 三、自治会からすべての暴力集団を追放しよう！
- 四、学館の一部暴力集団による私物化反対！
- 五、寮斗争、学館斗争勝利！
- 六、中教審答申粉砕、「大管法」臨時措置法案粉砕！